

「愛宕小学校」学校だより

あたごっ子



【平成26年11月28日（金）発行】

11月20日全校朝会のお話から

校長 富澤 将志

11月20日（木）の全校朝会、久々に全校児童にお話ができる朝会です。ここまで児童会三役や委員会役員の認証式、各種賞状伝達式等があつて該当児童には一声掛けることができましたが久々に全校児童に向けて、あらかじめ準備をしてお話をしました。

内容は、今月末11月30日（日）に種子島宇宙センター大型ロケット射場から打ち上げられる小惑星探査機「はやぶさ2」についてです。H-IIAロケットで軽自動車くらいの重さの「はやぶさ2」が打ち上げられます。ロケットの長さは体育館から校長室までの廊下の長さくらいで教室の天井の高さより少し太い大きなものです。イトカワより太陽から遠くにある直径900mほどの里芋のような形をしている小惑星（1999JU3）を調べます。跳ね返る光等の分析から、地球ができたころの塵や粒、水分を含んだ鉱物がそのまま残っていると考えられています。実は前日4年生に「はやぶさ君の冒険日誌」を読み聞かせしたので、それも含め1年生にもわかるようにお話をしたつもりです。

ご承知の通り、初代の「はやぶさ」は2003年5月に打ち上げられ、2005年9月に小惑星イトカワ（1998 SF36）に到着。探査機本体が自律制御により降下・接地して、小惑星表面のかけらを採集しました。その後、着陸時の不具合から2005年12月に重大なトラブルが生じ、通信が途絶えたりして帰還が3年も遅れ、7年もかかって約60億kmも飛び続け、2010年6月13日に帰ってきました。サンプル容器が収められていたカプセルが、はやぶさから切り離されて、パラシュートによって南オーストラリアの砂漠に着陸し、はやぶさの本体は大気中で燃えつきました。

小惑星のかけらを持ち帰る計画は世界で初めて成功し、世界中から賞賛されました。宇宙航空研究開発機構JAXAの人たちの決してあきらめない姿勢、壊れかけたイオンエンジンの部分と部分を組み合わせで動かしたこと、はやぶさ本体の判断で重力の小さな小惑星への離着陸をさせたこと、小惑星の科学観測、小惑星サンプルの採取、サンプル収納カプセルの直接大気圏再突入・回収、地表での小惑星のサンプル入手・・・すべてが日本人の粘り強さとアイデアと技術であることをお話ししました。

「カプセルの中のかげらから、イトカワになる前に1回、直径20kmぐらいの天体になって中が溶けたこと、その後何かの衝撃でバラバラになって内側のドロドロだった部分と外側の部分のかげらが集まってイトカワという小惑星ができたことが分かりました。」と説明を続けました。

「みんなも日本人です。コツコツ勉強を続けていったら、こんなに素晴らしい仕事ができるようになりますよ。期待をしています。はやぶさ2は、2020年末頃に帰ってくる予定ですが、今から楽しみです。」と児童へのお話を結びました。私たち大人もニュースに気をつけて見ていきたいものですね。

地域公開参観日

11月1日（土）に地域公開参観日が行われました。まず、体育館で歌声集会を行いました。各学年が、それぞれの学年の発達段階に応じた発表を行い、最後に全員で、全校合唱「海はぼくらの生命」を歌いました。集会後は、各教科・道徳の時間・総合的な学習の時間の授業が公開され、意欲的に学ぶ愛宕っ子の姿を、多くの地域の方や保護者の方に見ていただきました。6年生の総合的な学習の時間では、今年度も多くの地域の方にご協力をいただき、日本の伝統文化に触れることができました。今年度は、6年生を除く学年の公開授業を1時間にしましたが、いかがだったでしょうか。



【教育委員会から】

「就学助成制度の見直し（素案）に対する意見等の募集」を11月20日（木）から12月22日（月）まで実施しています。資料は、各支所・各公民館などに置いてあるほか、旭川市教育委員会ホームページでもご覧いただけます。詳しくは、教育委員会学務課就学助成係（電話25-9117）へお問い合わせください。

※広報誌「あさひばし」11月号に掲載済

12月の行事予定

1	月	交通安全街頭指導	17	水	朝会
4	木	参観日(1~3年)	18	木	学期末清掃(~22日) 冬休み図書貸出(低学年)
5	金	参観日(4~6年・はれやか学級) 学校諸費引落日	19	金	冬休み図書貸出日(中学年) 下校指導
9	火	委員会	22	月	冬休み図書貸出日(高学年)
15	月	学期末評価(特別日課5時間)	25	木	2学期終業式
16	火	学期末評価(特別日課5時間)			

